

「騙しのテクニック」

2018年9月5日FBページに投稿



2015年11月、若宮防衛副大臣は、石垣島への陸上自衛隊配備について、受け入れを要請しました。これに対して、中山市長は、「議会や市民の皆さんと話をしながら自衛隊配備を受け入れるのか、受け入れないのか議論を深め、結論・判断を出したい」と「『受け入れるのか受け入れないのか』判断はこれから」、という対応をしました（八重山毎日新聞2015年11月27日付、写真1）。

最近軍事ジャーナリスト小西誠さんの情報公開請求で開示された防衛省側の会談記録にも、中山市長は若宮副大臣に対して、「今後、実際に受け入れるかどうかにつきましては、．．．議会なり市民の皆様と話しながら、結論、判断をださせていただきたい」と発言したとあります（写真2）。

ところが、今年7月に突然「受け入れ表明」をした中山市長は、記者団との一問一答の中で、「配備計画は、国の専権事項なので受け入れないという判断は基本的でない」と言いました（八重山毎日新聞2018年7月19日付、写真3）。

あれっ、「受け入れるのか、受け入れないのか判断したい」と言っていたのに、後になって、「国の専権事項だから受け入れないという判断はない」ですって？

15年の発言は、「地方のことは地方住民が決める」という憲法、地方自治法の理念からすると、正当なものです。もしも、これが本心だったのであれば、今年の発言は、「国が配備を決めたら、市は逆らえないのです」と市民を騙して、「だからみなさんあきらめてください」と言っていることになります。

今年の発言が本心なら、15年の発言は、「あわてて反対しないでください、これからみなさんと決めるのですから」と市民を騙し、なだめて、陰で防衛省にどんどん準備を進めさせたことになりました。

どちらにしても、「市民を騙して、国の言いなりに危険なミサイル基地を造る」ことですね。

参考：

八重山毎日新聞2015年11月27日付記事

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/28837/>

八重山毎日新聞2018年7月19日付記事

<http://loveishigaki.jp/archive/article/article3/y-mainichi20180719bC.jpg>

陸自の受け入れを要請 500~600人規模

2015年11月27日 社会・経済, 政治・行政, 地域・教育

ツイート

G+

いいね! 284



防衛省が示した陸上自衛隊配備先候補地

若宮防衛副大臣 市長「議論を深め結論」 駐屯地候補に開南地区

若宮健嗣防衛副大臣は26日午後、中山義隆石垣市長を訪ね、石垣島に500~600人規模の陸上自衛隊を配備する方針を説明し、受け入れを要請した。中山市長は南西諸島における安全保障や自衛隊のあり方、防衛・防災上の自衛隊の必要性に理解を示した上で「議会や市民の皆さんと話をしながら自衛隊配備を受け入れるのか、受け入れないのか議論を深め、結論・判断を出したい」と述べた。回答時期については「明確な時期はコメントできない」としている。

防衛省の説明資料によると、配備先候補地は石垣島のほぼ中心部、開南集落西の市有地でジュマールゴルフガーデン南側。配備するのは警備、地对空ミサイル、地对艦ミサイルの3部隊で隊庁舎やグラウンド、火薬庫、射撃場を整備する。

「議会や市民の皆さんと話をしながら自衛隊配備を受け入れるのか、受け入れないのか議論を深め、結論・判断を出したい」

(中山市長 2015年11月26日)



写真1

「今後、実際に受け入れるかどうかにつきましては、... 議会なり市民の皆様と話しながら、結論、判断をさせていただきたい」

(中山市長 2015年11月26日 防衛省側メモ)



市長：では私の方から。若宮副大臣には、お忙しい中わざわざ石垣までお越しいただいてのご説明ありがとうございます。先だって5月に左藤前副大臣が来られて、調査に入るということでしたので、今日はその結果を聞かせていただけるのではないかといい形で捉えてましたので、一応、場所の提示もありました。国の考える安全保障とか、また南西諸島における自衛隊の在り方とか、我が国の防衛、また防災上の必要性については、十分いまの話で理解できましたので、今後、実際に受け入れるかどうかにつきましては、以前から私は市民の皆様、こういった自衛隊配備の話があった場合には詳細を市民の皆さんにオープンにして、議論を重ねた上で判断したいと申し上げておりますので、今日お受けした分はしっかり受け取らせていただいて、議会なり市民の皆様と話をしながら、結論、判断をさせていただきたいなという風に思いますので、今日はひとまずこのご提案を受け取らせていただけてご理解いただきたいなと思っておりますので、宜しくおねがいします。

写真2

「配備計画は、国の専権事項なので受け入れないという判断は基本的にない」

(中山市長 2018年7月18日)



中山市長、一問一答

受け入れ表明というところ。それは、防衛省がやるべきこと。受け入れ表明という言葉は使わず、了解すること。今後、用地取得や建設を求めたら、条例に基づいて進めていくことを確認した。これまで、防衛省主催の住民説明会、市主催の公開説明会、地域住民や市民と意見交換会を開いてきた。議の中で議論されてきた中で、市として判断した。市有地の申請があれば受け入れるのか。市民全体の意見交換会をおおむね同じような意見が出ていて、賛成・反対意見は出なかった。かなと聞く。議案も含めて議論を進めてきた中で、2年半近くいろんな意見を聞いた。お話を聞いてきた。お話を聞いてきた。この発表にしている。水問題が出てきたと思う。なせ受け入れという表現を使いたくないのか。受け入れないということはない。配備計画は、国の専権事項なので受け入れないという判断は基本的にない。それは、防衛省がやるべきこと。反対住民の声をどう位置付けるのか。以前から私は配備について必要性を理解している。その議論はかみ合わないところ。な、配備によって住民生活への影響などは確認して、大きな影響や何らかの不具合があれば、防衛省に意見を言っていく必要がある。住民の意見は。反対意見の中心は自衛隊が来る不安の対案になるという時。その上で、国防は国の専権事項と考え、南西諸島への配備については、国防上、安全保障上、災害対策としても必要だと認めており、市長として了解する。協力体制構築とは、防衛省と一体となって計画を進めるということ。市が求めている住民説明会を準備せず、防衛省側が土地の取得の申し込みをしていくことにはない。打診から答えを出すまで1年以上もかかった。市長になって1期目から、国防や安全保障について国が決めたことと言ってきた。私は市長という立場で話し合いのテーブルにつき、情報は市民にオープンにして議論を深めていくと申し上げた。その内容を実行した。最終判断はいいの。特別な事情がなければ基本的にその考え方でいい。水問題など、市民生活に重大な影響を及ぼす問題があれば、防衛省と協議を重ねる。このタイミングでの発表は。9月の市選も一つある。市民からいつ判断するか言われていた。これ以上長引かせるわけにはいかなかった。また、県の改正平等法条例の施行がある。市の判断をする引延ばすと、条例に引かき手続が定められないことなど対抗して良くない。石垣市の判断を遅らせることで、国の計画自体が遅れることは良くないと判断した。

写真3